

平成25年度 宇都宮都市交通戦略推進懇談会 結果概要

日 時 平成26年3月19日（水曜日）午前10時から午前11時5分まで

場 所 宇都宮市教育センター1階 コミュニティホール

出席者 別添資料のとおり

内 容 1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) 宇都宮都市交通戦略の平成25年度評価について

4 報告事項

(1) LRTの整備に向けた今後の取組について

(2) 交通戦略と地域公共交通総合連携計画について

5 閉会

【主な発言】

2 あいさつ

会長

- ・都市計画マスタープランにおいて、本市のまちづくりの方針として「ネットワーク型コンパクトシティ」を掲げており、宇都宮都市交通戦略はこれを支える計画である。平成21年に交通戦略が策定されて5年、内外から高い評価を得ている。例えば地域内交通はこの5年間で10地区まで導入が進み、バス路線の新設は、社会実験として特に平松本町線の利用者数が着実に伸びている。また、自転車ネットワークは、この5年間で延べ24kmと、東京都全域と同程度の自転車走行空間が整備されている。タクシーについては今年度、特定地域の選定に向けて作業を進めていると伺っている。指定されると新規参入、増車が禁止され、タクシー業界も変化を余儀なくされる。
- ・LRTを含め、本市のネットワークは多様な交通手段から成り立っている。この懇談会で皆様と議論しながら、一步でも二歩でも市が前進できるように、私も微力ながら努めていきたい。

3 議事

(1) 宇都宮都市交通戦略の平成25年度評価について

会長

- ・議題1について事務局から説明されたい。

事務局（市交通政策課）

- ・資料1-1 資料1-2 資料1-3 説明

委員

- ・まず、資料1-1 中期的施策事業の進捗状況中、環境影響調査の進捗状況について伺いたい。次に、目標指標I-③交通での移動に関する市民満足指標の平成25年度の減少については差が大きいため、N値、フェイス・シート※、年齢がどうなっているか伺いたい。次に、バス停上屋について、屋根があっても直射日光が当たり、暑いと年配の方からご意見があり、今後どのように考えるか伺いたい。

※フェイス・シート：調査対象者の個人的基本属性を把握する項目から構成される調査項目群のこと。代表的なものは、調査対象者の性、年齢、学歴、職業、収入。これらの基礎的な属性項目は社会調査が始められた当初は調査票の冒頭（1ページ目）におかれたことから、慣例でフェイス・シートと呼ばれている。（出典：（一社）社会調査協会）

事務局

- ・1点目については、LRTの導入ルート、特に鬼怒川を渡る部分について、今年度と来年度の2か年で調査を実施している。今年度は夏以降、動植物の生態を調査しているところであり、新年度は春に調査を実施し、取りまとめたい。なお、調査に当たっては、適宜環境アドバイザーのご意見を伺いながら進めていきたい。
- ・2点目については、N値は、平成24年度は2400前後、平成25年度は340前後となっている。それぞれ無作為抽出により、年齢性別を問わずに実施した。
- ・3点面については、バス停の利用環境整備は、バス事業者及び行政で進めているところであり、いただいたご意見については、今後参考にしながら、利用しやすい環境整備を進めていきたい。

委員

- ・1点目については了解した。2点目については無作為抽出とはいえ、N値の桁が違うので、直接に比較するのは無理があると感じる。他の調査を転用しているということだと思うが、工夫が必要と考える。3点目については了解したが、一点、都市基盤の強さの点から、上屋の上に太陽光パネルを載せられないか。ソーラーシステムで案内板を電光掲示するという事例が海外にある。災害時に明かりがほしいという意見があり、急遽の対応にもなる。上屋の上にはスペースがあるから、日陰対策を含め、活用を考えられたらいいかと思う。

事務局

- ・バス停のソーラータイプについては、国道123号線のバス停を統合した際に、ソーラータイプのバス停を導入しているところであり、広告付きバス亭の上屋においても導入について事業者と検討していきたい。

会長

- ・市民満足度の指標は、サンプル数が2400と300と大きく異なるため、標本から得られた平均値が母集団の平均値と等しいと考えてよいか検証し、誤差の範囲かどうかを把握しておく必要があると考える。
- ・その他いかがか。

委員

- ・情報提供だが、自転車道の整備について、県では作新学院前の大通り約500mについて、社会実験として自転車歩行者道を物理的に道路柵で分離した。今後は、桜通り十文字から宮環までの2kmの区間を同様に、自転車と歩行者の分離を物理的に行う自転車道の整備を進

め、将来は県警の支援を得ながら、自転車道という形で進めたいと考えている。

事務局

- ・市でも自転車のまち推進計画に基づき進めているが、同じ道路ネットワークとして国・県と連携しながら、道路状況に応じて整備し、ネットワーク構築を進めたい。

会長

- ・利用者からすると国道、県道、市道を選んで移動しているわけではないため、ネットワーク整備を進めていただきたい。自転車マップを作成されているが、走行空間整備についてもマップでPRできればと思う。

委員

- ・地域内交通については順調に進んでいると思う。各地区高齢化進んでいる中で喜ばれている。検討中の地区が2、3ある。中心となる人材がいるかないかで変わる。そういうものを含めて、今後拡大に向けて支援をお願いしたい。

会長

- ・宇都宮市の地域内交通が高く評価されている点は、行政が丸抱えている他都市が多い中で、自治会と連携し、自治会費を資金としている点などにある。こうした連携策をあわせてPRできればと思う。うまくいっている地区と苦しんでいる地区がある。うまくいっているところの要因を分析しながら、そうでないところに情報提供していくなど進行管理していただければと思う。
- ・他にご意見はあるか。ないようなので、議事についてはこれにて終了とさせていただき、報告事項に移る。報告事項の説明を聞いた最後にご意見、質問を伺いたい。

4 報告事項

- (1) LRTの整備に向けた今後の取組について
- (2) 交通戦略と地域公共交通総合連携計画について

会長

- ・報告事項(1)(2)は相互に関連するため、事務局から一括して説明されたい。

事務局

- ・資料2 資料3 説明

会長

- ・ご意見、ご質問はあるか。

委員

- ・資料2の軌道特許とは何か伺いたい。
- ・提案だが、LRTの電停については、屋根にソーラーパネルを設置し災害時の情報提供拠点を兼ねるなど、総合的な都市づくりの観点からの整備をお願いしたい。
- ・LRTの電流による障害について、環境影響調査で調査していただければと思う。

事務局

- ・1点目について、LRTは路面電車、軌道事業になり、軌道事業と別に鉄道事業がある。これらの事業を実施するためには、国からの免許が必要になる。それが軌道事業の特許になり、

特許がなければ事業を実施できないということになる。

- ・ 2点目について、停留所での情報提供の機能整備については、ご意見を参考に検討を進めたい。
- ・ 3点目について、電流による障害の把握については、環境影響調査の中で検討できるかを含め、取り組んでいきたい。

森本会長

- ・ 電停の活用は、ネットワーク型コンパクトシティの一つの核になる。L R T周辺の土地利用もあわせて、本市の目指す集約型都市構造に寄与するための、重要な拠点の一つになるという位置付けとして取り組んでいる。十分ご意見をいただきながら進めたい。
- ・ 資料2のフローを見るとかなりタイトなスケジュールになっており、やるべきことが目白押しの感がある。一つが終わってから次に取り組む仕組では、何年かかるかわからない。関係機関との十分な調整は当然だが、同時進行的なこともでてくるだろう。市長の政治的な発言やまち推進機構の要望の2019年度までの着工という話もあり、そういうスケジュール感で非常に厳しい。皆様のご協力以外の何物でもないと考えている。
- ・ 他にいかがか。全体を通してお願いしたい。各種団体の方いかがか。

委員

- ・ ノンステップバスは障がい者の外出支援につながっている。停留所の時刻表にノンステップバスの通過時間は表示されているか。

委員

- ・ バスの運用上、特定ダイヤの運行が難しく、時刻表への掲示はしていない。

委員

- ・ 何時のバス停にノンステップバスが必ず配車されるという表示はしていない。この時間に車椅子で乗車するというご連絡をいただければ、最大限対応できるようにしたい。

事務局

- ・ 関東自転車では、バス停時刻表に四角い囲みがあり、ノンステップバスが分かるように表示されている。

会長

- ・ 他にいかがか。ないようなので、以上をもって予定していた議事及び報告事項はすべて終了となった。皆様のおかげで円滑に進行できた。感謝したい。

以上